

平成 26 年度

川崎市視覚障害者情報文化
センター事業概要

川崎市視覚障害者情報文化センター

目 次

1	川崎市視覚障害者情報文化センターの概要	- 3 -
	(1) 設置及び事業者	- 3 -
	(2) 所在地	- 3 -
	(3) 沿革	- 3 -
	(4) 施設規模	- 3 -
	(5) 根拠法令等	- 3 -
	(6) 事業の概要	- 4 -
	(7) 組織	- 4 -
2	川崎市視覚障害者情報文化センターの事業について	- 4 -
	(1) 図書館資料の維持管理	- 4 -
	(2) 図書館資料等の貸出し	- 4 -
	(3) 点字図書、録音図書及び録音雑誌の製作等	- 4 -
	(4) 他の点字図書館等との点字図書、録音図書、雑誌等の相互貸借	- 4 -
	(5) サピエへの録音図書、点字図書及び録音雑誌のアップロード	- 5 -
	(6) テキスト DAISY 資料の製作とアップロード	- 5 -
	(7) 利用者登録	- 5 -
	(8) 「ぶっくがいど」の発行	- 5 -
	(9) プライベートサービスの実施	- 5 -
	(10) 点訳者及び音訳者の養成講座の実施	- 5 -
	(11) 点訳者及び音訳者の育成・指導等	- 5 -
	(12) 視覚障害者訓練事業	- 6 -
	(13) 便利グッズの展示と販売	- 6 -
	(14) 関係機関・団体との連絡調整	- 6 -
	(15) 篤志家報告	- 7 -
	(16) 市内のボランティア団体との連絡調整	- 7 -
	(17) その他啓発等の事業	- 8 -
3	平成 26 年度事業のあらまし	- 8 -
	(1) 図書館サービスの状況	- 8 -
	(2) 利用者等の状況	- 12 -
	(3) プライベートサービスの実施状況	- 17 -
	(4) 「ぶっくがいど」の発行状況（個人、団体）	- 17 -
	(5) 図書館資料の受入状況	- 17 -
	(6) 点訳者の新年会及び点訳相談会の開催	- 18 -
	(7) 音訳者の連絡会、校正者会議の開催	- 18 -
	(8) 音訳者の養成講座の実施	- 18 -

(9) 点訳者の養成講座の実施	- 18 -
(10) 表彰	- 18 -
(11) センターまつりの実施について	- 19 -
(12) 読書会の開催	- 19 -
(13) デイジー図書ダウンロードサービスを開始しました。	- 20 -
(14) 「シネマ・デイジー」の貸し出しを開始しました。	- 20 -
(15) 視覚障害者訓練事業の実施状況	- 20 -
ア 訓練申請と利用契約の状況	- 21 -
イ 訓練生の状況	- 22 -
ウ 訓練の年度別の状況	- 26 -
エ 訓練の内訳	- 27 -
オ 各訓練の状況	- 28 -
カ 相談業務等の状況	- 29 -
キ 川崎市視覚障害者情報文化センター訓練事業説明会	- 30 -
ク 屋外交流会の実施状況	- 30 -
ケ 訓練生懇親会	- 30 -
コ パソコンサポートボランティア研修会	- 31 -
サ 講師派遣の状況	- 31 -
シ 研修への参加状況	- 31 -
ス 関係機関との連携	- 32 -
セ 展示会などへの参加状況	- 33 -
<用具について>	- 33 -
<イベントについて>	- 34 -
<見学について>	- 35 -

1 川崎市視覚障害者情報文化センターの概要

(1) 設置及び事業者

川崎市

(2) 所在地

〒210-0026 川崎市川崎区堤根 34-15 ふれあいプラザかわさき 3階

(3) 沿革

昭和 37 年 11 月 川崎市社会福祉会館内に「盲人図書室」として開設

昭和 43 年 4 月 厚生省から「点字図書館」としての指定を受ける。

昭和 49 年 7 月 「川崎市盲人図書館」と名称を変更。

平成 26 年 4 月 現在地に移転、指定管理先を「社会福祉法人日本点字図書館」とし「川崎市視覚障害者情報文化センター」と名称を変更。

(4) 施設規模

単位 m^2

多目的室 A 1・A 2	68.6	スタッフルーム	49.4
多目的室 B	39.0	生活情報・用具展示ルーム	30.0
対面朗読室	11.2	訓練室	8.9
前室	6.5	訓練室	8.9
録音室 小 1	4.7	サービスルーム	120.9
録音室 小 2	3.7	閲覧室	7.6
視覚障害者交流室	14.4	ネットワーク室	12.4
給湯室	3.4	プリント室	12.4
更衣室 1	3.8	廊下	62.2
更衣室 2	3.6	パイプスペース	5.5
視覚障害者配慮 WC	3.8		
合 計			476.9

(5) 根拠法令等

- ・身体障害者福祉法第 34 条「視聴覚障害者情報提供施設」
- ・障害者総合支援法第 77 条「市町村の地域生活支援事業」
- ・身体障害者社会参加支援施設の設備及び運営に関する基準（省令）
- ・川崎市視覚障害者情報文化センター条例

(6) 事業の概要

本市の区域内に居住・通勤・通学する視覚障害者の更生及び援護育成を図るため、次の事業を行う。

- ・点字図書及び録音図書の閲覧及び貸出しに関すること。
- ・読書用器材の貸出しに関すること。
- ・点訳者及び音訳者の育成指導に関すること。
- ・点字物及び録音物の発行に関すること。
- ・その他、視覚障害者の更生及び援護育成を図るために必要な業務に関すること。

(7) 組織

川崎市視覚障害者情報文化センター

- ・センター長 1 名
- ・利用者サービスグループ・利用者支援グループ・総務グループ 計 10 名

2 川崎市視覚障害者情報文化センターの事業について

(1) 図書館資料の維持管理

日々の維持管理に加えて、図書整理期間を設けて修繕、除籍などを実施しています。

(2) 図書館資料等の貸出し

貸出しは、来館、電話、手紙（点字によるものを含みます）、FAX、電子メール、視覚障害者情報総合ネットワークサピエ（以下「サピエ」という）を利用してのオンラインリクエストの方法により受け付けています。

発送による貸出しは、原則として、1日1回行っています。また、希望者には、雑誌（点字、CD及びテープ）の定期貸出しも行っています。

なお、来館及び電話受付は、休館日の月曜日をのぞき、火曜日から日曜日までの午前9時から午後5時までです。

(3) 点字図書、録音図書及び録音雑誌の製作等

全国視覚障害者情報提供施設協会の製作基準に準拠し製作しています。また、ボランティアグループ等からの寄贈図書の受入れも行っています。なお、製作図書の選定は、利用状況等を勘案し、選書会議にて決定しています。

(4) 他の点字図書館等との点字図書、録音図書、雑誌等の相互貸借

主にサピエを通じて、全国規模での相互貸借を行い、他の点字図書館等が所蔵する点字図書、録音図書、雑誌等を借り受けて、当センター利用者へ貸し出すサービスを行っています。

(5) サピエへの録音図書、点字図書及び録音雑誌のアップロード

川崎市視覚障害者情報文化センターの利用者へのサービスだけでなく、全国の視覚障害者へのサービスにも貢献できるように、蔵書情報や蔵書データをアップロードしています。

(6) テキスト DAISY 資料の製作とアップロード

著作権法の改正に基づき、新たなコンテンツであるテキスト DAISY の製作とサピエへのアップロードを行っています。

(7) 利用者登録

氏名、住所、生年月日、広報誌の希望の有無などを電話等で聞き取りのうえ、受け付け、登録しています。

また、利用登録できる方は、川崎市在住、在勤、在学の方で、視覚による表現の認識に障害のある方です。

なお、2年に一度、登録情報の更新を行っています。

(8) 「ぶっくがいど」の発行

新刊情報のほか、視覚障害者へのタイムリーな情報を掲載し、墨字版、点字版、CD版を作成し、偶数月初旬に発行しています。

(9) プライベートサービスの実施

個人的なニーズに応えるため、次のようなサービスを提供しています。

№.	サービス名称	内容
①	点訳	蔵書にない図書の点訳をします。
②	点字複写	点字データを打ち出します。
③	録音朗読	電気製品の取扱い説明書などをCD化します。
④	対面朗読	蔵書にない図書を読み上げます。
⑤	読書用機材貸出し	CD図書再生機の貸出しを行います。

※「読書用機材貸出し」について

川崎市視覚障害者情報文化センターの所蔵のCD図書を聞くためには、専用の機器が必要ですが、購入までの試用として、1ヶ月を目安に貸し出しています。

(10) 点訳者及び音訳者の養成講座の実施

隔年で点訳者及び音訳者の養成講座を実施しています。

(11) 点訳者及び音訳者の育成・指導等

技術向上のための研修や研究会を実施・支援しています。

また、点訳者及び音訳者の管理とともに活動実績の管理を行い、各種表彰の根拠資料として利用します。

さらに、点訳者及び音訳者の技術向上と交流を目的として、新年会、連絡会、校正者会議等を実施しています。

(12) 視覚障害者訓練事業

障害者ケアマネジメントの手法による訓練等を行っています。

ア 訓練

・コミュニケーション訓練

点字、ハンドライティング及び音声読み上げソフトを利用したパソコン操作

・歩行訓練

手引き、屋内歩行及び白杖による歩行

・日常生活訓練

調理、裁縫・編物、日常身辺処理

イ 相談

視覚障害に関する各種相談（訓練、各種用具・機器、進路等）に応じます。

ウ 実施方法

訓練は、訪問又は当館への通所のいずれかの方法で行います。

相談は、電話の場合は随時受け付け、来館の場合は予約が必要です。

なお、来館及び電話受付は、火曜から日曜日の午前9時から午後5時までです。

(13) 便利グッズの展示と販売

点字器や白杖はもちろん、調理器具、拡大読書器など、日常生活に便利な商品を展示してあり、直接手にとって、試してからご購入いただけます。白杖など各種修理も承ります。また、日常生活用具の給付制度を利用したい方には制度及び申請方法の説明も行っています。生活に便利な情報も積極的に発信しています。

(14) 関係機関・団体との連絡調整

ア 市内関係機関

- ・市立図書館

イ 外部加盟組織

- ・全国視覚障害者情報提供施設協会
- ・日本盲人社会福祉施設協議会自立支援施設部会
- ・関東地区点字図書館協議会
- ・神奈川県視覚障害者情報提供施設連絡協議会
- ・神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会

(15) 篤志家報告

ボランティア団体などから寄贈された録音図書・点字図書の内容を報告書（寄贈年月日、寄贈された図書等、寄贈した団体名等及びその住所を記載）としてまとめ、川崎市健康福祉局長へ提出しています。

(16) 市内のボランティア団体との連絡調整

ア 川崎市視覚障害者ボランティア連絡会（オブリガード）

障害者と共に生き、共に歩む地域活動を理念としています。川崎市内の視覚障害者にかかわっている録音、点訳、拡大写本、パソコンサポートなどのボランティアグループが連携し、障害者のニーズに迅速かつ的確に応えています。

なお、参加グループは、次のとおりです。

活動分野	グループ名
録音グループ	水車の会 さんざし ひいらぎ かざぐるま
点訳グループ	芽の字会 スターシックス ぶれいる アンダンテ 里の芽会 木の芽会
拡大写本グループ	ルーペの会 とんぼ ぺんパルの会
CD 図書グループ	DAISY 川崎
パソコンサポートグループ	川崎パソコンユーザー会 あさお PC クラブ 川崎パソコンクラブ (KPC)

イ 川崎市視覚障害者情報文化センターを活動拠点としているグループの紹介

・水車の会

「情報ポケット水車」及び「音のしおり」を月刊で発行しており、センターで発送作業を行っています。また、録音図書の寄贈等もあります。

・デイジー川崎

CD図書の製作委託契約を締結しています。

・川崎パソコンユーザー会

ユーザー（視覚障害をお持ちの方）とサポーター（パソコンサポートボランティア）が情報バリアフリーをめざし、パソコン操作の勉強をしています。

(17) その他啓発等の事業

読書会(年2回)、朗読会の開催、各種コンサートの開催、音声解説付きDVD映画体験上映会の毎月開催、視覚障害者と支援者のための防災イベントの開催、センターまっりの開催等。これらの催しを行い、センター事業の理解と普及に努めています。また、本事業概要を毎年度作成し、7月頃を目処に関係部署・団体へ送付しています。

3 平成26年度事業のあらまし

<概要>

盲人図書館からの業務引継ぎも順調に終え、4月のオープン以来、大きな混乱もなく業務を進めてきました。

オープン当初から、行政・視覚障害者団体・福祉関係等多くの見学者があり、関心の高さを示しています。

図書利用のみならず訓練・用具関係の利用者も夏以降順調に増え、利用者の中で定着してきたと言えます。

秋以降はさまざまなイベントを企画し、利用者や地域の方々に情報提供を計ると共に、センターを身近に感じていただくことができました。冬のコンサートでは遠く埼玉からの来場者もあり、センターへの関心の高さを感じました。また、防災イベントや世界のバリアフリー絵本展などでは地元の新聞取材もあり、地域に密着した意義ある活動となりました。

場所が川崎駅から少し遠いこと、多摩方面からのアクセスに時間がかかることなどから、利用者にとって使いづらさを感じてしまうこともありますが、市内の視覚障害者に対する総合的な情報拠点としての役割を強く自覚し、さらに積極的な情報発信を進めていきます。

(1) 図書館サービスの状況

<利用者数について>

3月末日現在の登録者数は353名であり、25年度末の個人利用者数319に対して110.6%となりました。

<図書の貸出し・製作・養成状況について>

2014年4月から15年3月の貸出し状況は次の通りです。登録利用者数は353名、登録利用団体は229施設。貸出し数は、個人・団体合わせて、点字図書261タイトル、録音図書は12,144タイトルでした。点字雑誌は年間356タイトル、録音雑誌はテープ雑誌の貸出しが年間92タイトル、CD雑誌を年間5,209タイトル貸し出しました。この中で他の図書館からの相互貸借による貸し出しは、点字資料65タイトル、CD資料8,097タイトルを提供しました。また、利用者ニーズを尊重した図書選定を行い、前年度からの製作分も含めて点字図書は48タイトル、プライベートサービス38タイトル製作しました。

録音図書も前年度からの製作分も含めて88タイトル、プライベートサービス 10タイトル、テキストデージー図書2タイトルを製作しました。

また、川崎市民を対象とした点訳者養成講座および朗読者養成講座の両方を開催しました。点訳者4名、朗読者10名の受講者があり、あらたにボランティアとして参加した方は、点訳者3名、朗読者4名です。また、活動中の点訳者・朗読者を対象としたスキルアップ研修会を開催しました。

ア 蔵書

・分類別蔵書数

分類	点字図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数
0 総記	74	263	90	90
1 哲学	88	296	200	200
2 歴史	105	535	402	402
3 社会科学	316	1158	489	490
4 自然科学	171	698	453	453
5 技術	106	430	133	133
6 産業	59	226	97	97
7 芸術	116	442	235	235
8 言語	26	120	37	37
9 文学	1353	4800	2317	2317
E 絵本・その他	7	16	1	1
合計	2421	8984	4454	4455

・受入種別蔵書数

受入	点字図書		CD図書		テキストデージー	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数
自館製作	2207	8738	1354	1354	2	2
購入	0	0	2	2	0	0
寄贈	18	52	2664	2665	0	0
厚労省委託	196	492	434	434	0	0
他館複製	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
合計	2421	9282	4454	4455	2	2

・平成 26 年度除籍蔵書数

点字図書		テープ図書		CD図書	
タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
0	0	0	0	0	0

イ 貸出しを行っている雑誌

・点字雑誌 9 誌

雑誌名	発行間隔
コメディカルの友	〔月刊〕
経絡治療	〔月刊〕
東洋療法	〔月刊〕
鍼灸柔整新聞	〔月刊〕
鍼灸の世界	〔月刊〕
旅	〔隔月刊〕
点字ジャーナル	〔月刊〕
点字毎日	〔週刊〕
やまびこ	〔月刊〕

・CD雑誌 57 誌

雑誌名	発行間隔
NHK きょうの健康	〔月刊〕
NHK 趣味の園芸	〔月刊〕
NHK 俳句	〔月刊〕
PHP	〔月刊〕
アエラ	〔週刊〕
朝日新聞天声人語	〔月刊〕
アベ・マリア	〔月刊〕
医道の日本	〔月刊〕
英語よもやま通信	〔月刊〕
栄養と料理	〔月刊〕
おしゃれなひととき	〔季刊〕
オール読物	〔月刊〕
オレンジページ	〔月 2 回〕
近刊録音図書情報	〔月刊〕
暮らしの手帖	〔隔月刊〕
声の広報「厚生」	〔隔月刊〕
声の食生活情報	〔月刊〕
声のナショナルジオグラフィック 日本版	〔月刊〕

声の婦人公論	〔月刊〕
サンデー毎日	〔週刊〕
社説5誌	〔旬刊〕
週刊朝日	〔週刊〕
週刊現代	〔週刊〕
週刊新潮	〔週刊〕
週刊文春	〔週刊〕
週刊ポスト	〔月刊〕
小説現代	〔月刊〕
小説新潮	〔月刊〕
小説宝石	〔月刊〕
小説すばる	〔月刊〕
女性自身	〔月2回〕
ステラ	〔週刊〕
世界	〔月刊〕
選択	〔月刊〕
壮快	〔月刊〕
総合リハビリテーション	〔月刊〕
点字毎日	〔隔週〕
東京くらしねっと	〔隔月刊〕
東洋経済	〔月刊〕
日経サイエンス	〔月刊〕
日経パソコン	〔月刊〕
日経ヘルス	〔月刊〕
日経マネー	〔月刊〕
にってんデイジーマガジン	〔月刊〕
ニューズウィーク	〔週刊〕
ニュートン	〔月刊〕
百万人の福音	〔月刊〕
文学界	〔月刊〕
文芸春秋	〔月刊〕
別冊文芸春秋	〔隔月刊〕
ホームライフ	〔月刊〕
みんぱく	〔月刊〕
やまびこ通信	〔月刊〕
ラジオ深夜便	〔月刊〕
歴史読本	〔月刊〕
旅行読売	〔月刊〕
ロバさんの万華鏡	〔季刊〕

・テープ雑誌 6誌

暮らしの手帖	[月刊]
声の婦人公論	[月刊]
ダンスファン	[月刊]
糖尿病ライフさかえ	[月刊]
ニュートン	[月刊]
ラジオ深夜便	[月刊]

(2) 利用者等の状況

ア 利用者及び市内の視覚障害者の状況

(ア) 利用者数

26年度の新規登録	26年度の登録抹消	登録者
40	7	353

(イ) 障害等級別利用者数

障害等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	未所持
人数	187	118	11	3	10	1	23※

※障害者手帳は持っていませんが、視覚表現のままでは、読書が困難な方です。

(ウ) 年齢別利用者数

年齢	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	不明
人数	3	7	13	42	48	89	149	2

イ 資料の貸出状況

(ア) 分類別資料貸出(個人)

分類	媒体		テープ図書		CD図書	
	点字図書	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
0 総記	1	1	0	0	101	101
1 哲学	1	3	0	0	172	172
2 歴史	1	3	1	8	232	232
3 社会科学	0	0	5	26	252	252
4 自然科学	6	11	1	2	275	275
5 技術	4	4	0	0	65	65

6 産業	0	0	0	0	47	47
7 芸術	1	1	0	0	527	528
8 言語	4	14	0	0	37	37
9 文学	93	306	24	93	8164	8204
その他	2	3	0	0	49	51
小計	113	346	31	129	9921	9964
雑誌	356	356	92	323	5209	5209
合計	469	702	123	452	15130	15173

(イ) 分類別資料貸出 (団体)

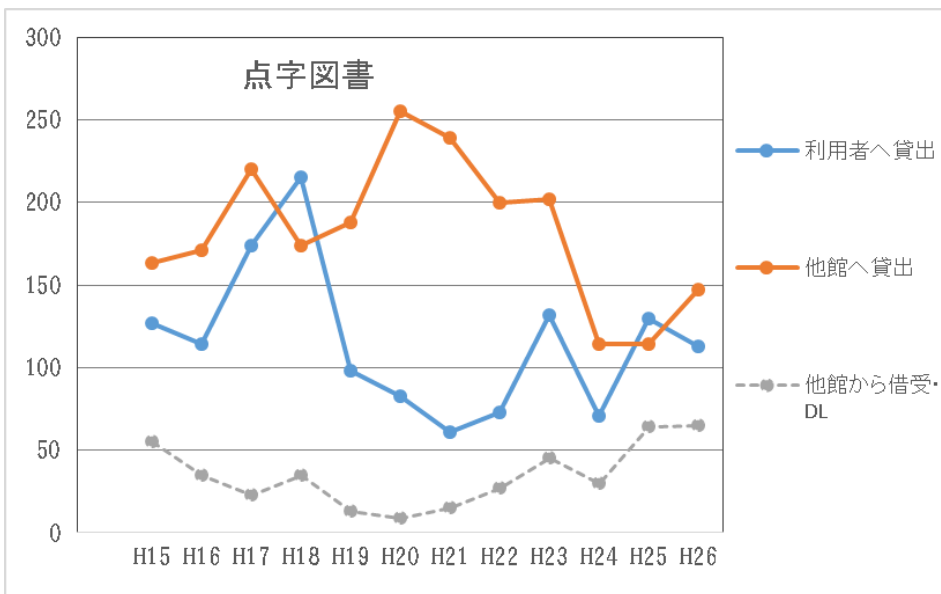
分類	点字図書		テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
0 総記	0	0	0	0	37	37
1 哲学	6	19	0	0	66	66
2 歴史	4	19	0	0	137	137
3 社会科学	20	45	0	0	175	175
4 自然科学	8	41	0	0	74	74
5 技術	4	9	0	0	38	38
6 産業	1	3	0	0	33	33
7 芸術	8	25	0	0	77	80
8 言語	0	0	0	0	18	18
9 文学	96	350	0	0	1568	1568
その他	0	0	0	0	0	0
小計	147	511	0	0	2223	2226
雑誌	0	0	0	0	105	105
合計	147	511	0	0	2328	2331

(ウ) 資料の借受状況
分類別資料

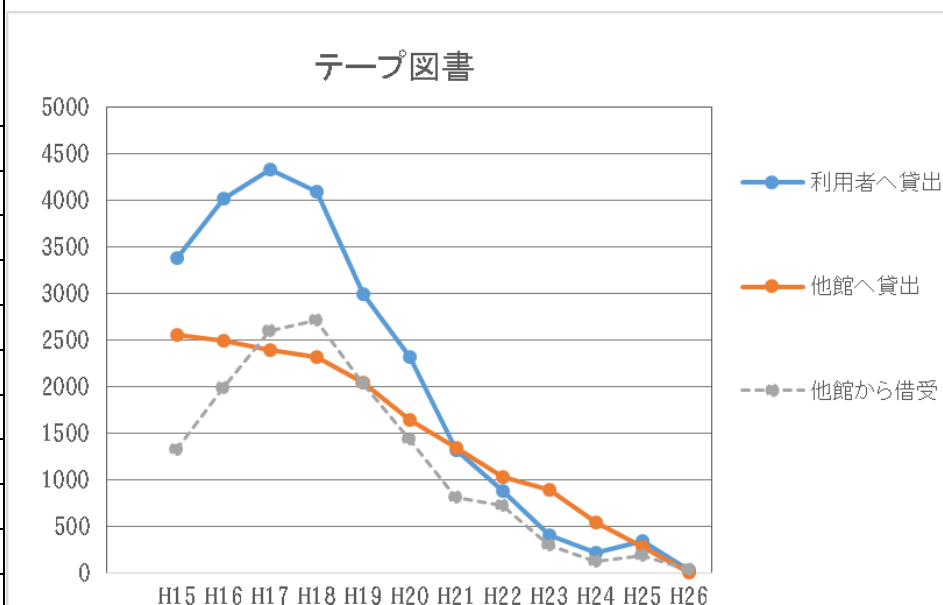
分類	点字図書		テープ図書		CD 図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
0 総記	1	1	0	0	63	63
1 哲学	1	3	0	0	140	140
2 歴史	0	0	1	8	87	87
3 社会科学	0	0	5	26	161	161
4 自然科学	6	11	1	2	209	209
5 技術	4	4	0	0	47	47
6 産業	0	0	0	0	28	28
7 芸術	1	1	0	0	409	409
8 言語	3	11	0	0	29	29
9 文学	47	136	24	93	6883	6887
その他	2	3	0	0	41	43
小計	65	170	31	129	8097	8103
雑誌	3	3	92	323	4073	4073
合計	68	173	123	452	12170	12176

(エ) 利用状況の推移

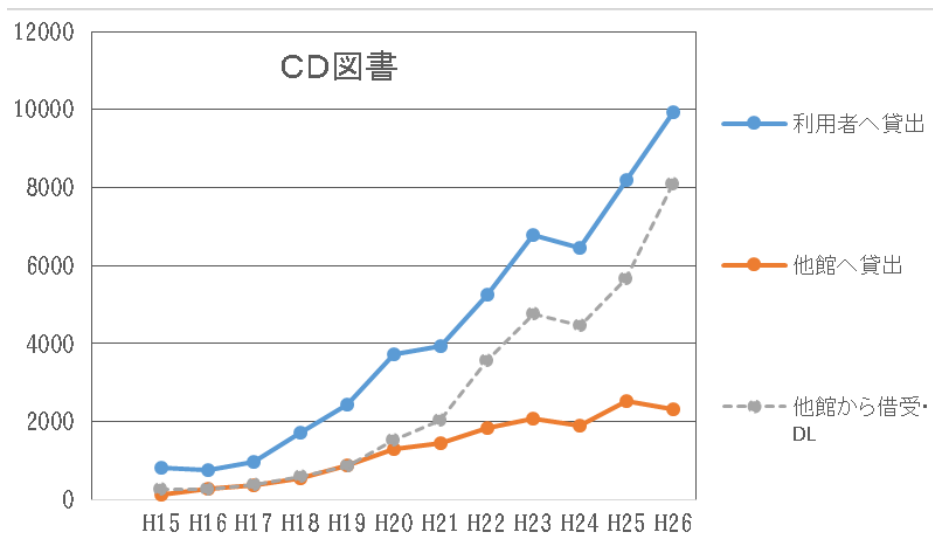
点字 図書	利用者 へ貸出	他館へ 貸出	他館 から借 受・DL
H15	127	163	55
H16	114	171	35
H17	174	220	23
H18	215	174	35
H19	98	188	13
H20	83	255	9
H21	61	239	15
H22	73	200	27
H23	132	202	45
H24	71	114	30
H25	130	114	64
H26	113	147	65



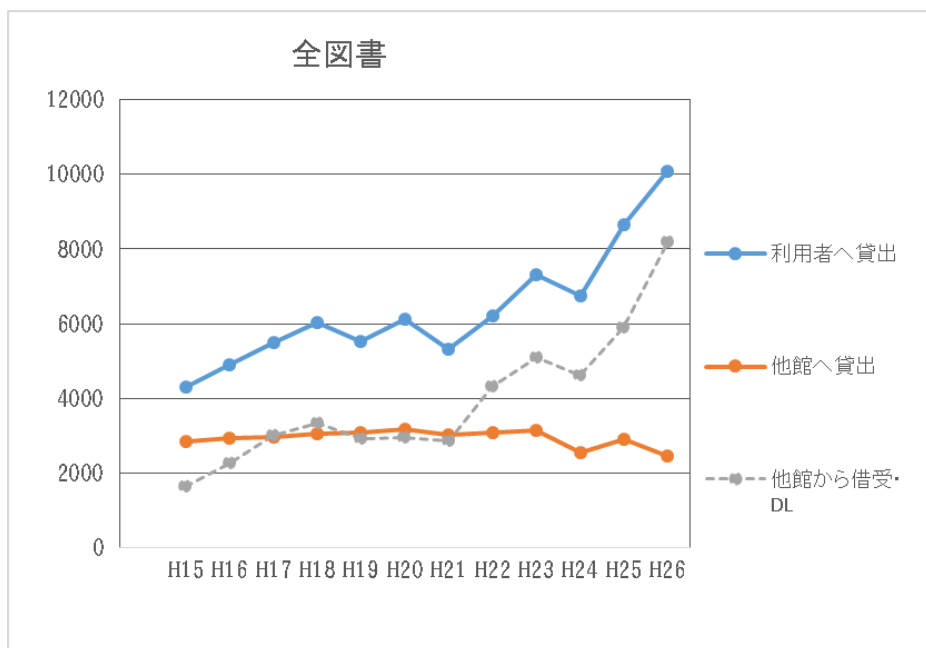
テープ 図書	利用者 へ貸出	他館へ 貸出	他館 から借 受
H15	3373	2553	1319
H16	4017	2495	1986
H17	4329	2390	2593
H18	4088	2319	2709
H19	2987	2034	2032
H20	2309	1637	1435
H21	1319	1340	806
H22	873	1032	721
H23	402	884	299
H24	216	541	125
H25	338	282	185
H26	31	0	31



CD 図書	利用者へ貸出	他館へ貸出	他館から借受・DL
H15	818	123	269
H16	756	283	252
H17	984	362	397
H18	1731	564	601
H19	2426	875	868
H20	3724	1286	1520
H21	3929	1444	2037
H22	5252	1839	3567
H23	6779	2073	4752
H24	6464	1893	4463
H25	8196	2522	5649
H26	9921	2328	8103



全図書	利用者へ貸出	他館へ貸出	他館から借受・DL
H15	4318	2839	1643
H16	4887	2949	2273
H17	5487	2972	3013
H18	6034	3057	3345
H19	5511	3097	2913
H20	6116	3178	2964
H21	5309	3023	2858
H22	6198	3071	4315
H23	7313	3159	5096
H24	6751	2548	4618
H25	8664	2918	5898
H26	10065	2475	8199



(3) プライベートサービスの実施状況

点訳	38件
点字複写	0件
墨字訳	0件
代筆	0件
録音朗読	10件
複製サービス	0件
対面朗読	0件
読書用機材貸出し	14台

(4) 「ぶっくがいど」の発行状況（個人、団体）

墨字版	テープ版	CD版
162	38名	204

(5) 図書館資料の受入状況

平成26年4月1日から平成27年3月31日までの受入状況

・分類別蔵書数

分類	媒体		点字図書		CD図書		テキストデジター	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数		
0 総記	2	6	2	2	0	0		
1 哲学	3	10	1	1	1	1		
2 歴史	3	7	16	16	0	0		
3 社会科学	33	96	12	12	0	0		
4 自然科学	11	36	18	18	0	0		
5 技術	2	4	3	3	0	0		
6 産業	6	20	2	2	0	0		
7 芸術	5	17	15	15	0	0		
8 言語	1	3	2	2	0	0		
9 文学	72	229	86	86	1	1		
合計	138	428	157	157	2	2		

・受入種別蔵書数

受入	点字図書		CD図書		テキストデージー	
	タイトル	冊数	タイトル	枚数	タイトル	枚数
自館製作	52	182	70	70	2	2
購入	0	0	0	0	0	0
寄贈	2	4	22	22	0	0
厚労省委託	84	242	65	65	0	0
合計	138	428	157	157	2	2

※テープ図書の製作は、平成 23 年度で終了しました。

(6) 点訳者の新年会及び点訳相談会の開催

ア 点訳者新年会

点訳者の交流を目的として、新年会を開催しました。

イ 点訳相談会

校正者を講師とし、点訳で生じた疑問点の相談会を 1 回実施しました。

(7) 音訳者の連絡会、校正者会議の開催

ア 音訳関係者連絡会

6 月 19 日に音訳関係者が一堂に会する音訳者連絡会を開催しました。録音図書の貸し出し実績、製作状況、今後の蔵書構成の予定などについて説明を行いました。また、校正者より音訳校正の具体的な事例報告があり、雑音が入った場合、画面にどのような波形が出るのかという説明がなされ、今後の音訳活動の留意点を確認しました。

イ 校正者会議

年度を通じて計 2 回の校正者会議を開き、様々な課題について、議論し、コミュニケーションを取ることができました。

(8) 音訳者の養成講座の実施

読み方の基本練習、録音図書製作ソフト、処理の方法、読みの確認等 16 回の講座を開催しました。講習会には 10 名の参加がありました。4 名の方に修了書をお渡ししました。

(9) 点訳者の養成講座の実施

経験のある点訳ボランティアの方を講師に 18 回講座として開始しました。4 名の受講者がありました。3 名の方に修了書をお渡ししました。講座の中で視覚障害者から点字についての話を盛り込み好評でした。

(10) 表彰

12 月 6 日に開催される、第 34 回「川崎市民のつどい」の中で、福祉功労者の方への市長表彰が行われます。その市長表彰に、図書製作協力者から点訳

奉仕者と、音訳奉仕者が、更正援護功労者として選ばれました。長年にわたり、当センターの運営に多大なる御協力と他の音訳者や点訳者の模範となる活動を行った方々です。

「川崎市民のつどい」における市長表彰者

(身体障害福祉に係る更生援護功労者)

点訳奉仕者 渡辺 薫
音訳奉仕者 中村 睦美

(11) センターまつりの実施について

視覚障害者福祉に関する啓発及び川崎市視覚障害者情報文化センターの利用促進を目的として、2月に開催しました。今年度は、200名を超える来場者にお越しいただき、センターとしては初めてのまつりを盛況に終わらせることが出来ました。エムナマエ氏の講演「僕はあきらめない」では、失明後絵を描くようになったこと、ピンチをチャンスに変えたことなど温かいお話に時間の経つのを忘れ、強く励まされましたという感動の声を数多くいただきました。川崎市視覚障害者福祉協会のみなさまの無料マッサージ体験、拡大読書器展示やiPad体験など、普段センターで体験できないコーナーにはオープン直後から大勢の人で溢れかえっていました。その他、ボランティア団体の紹介や訓練事業の紹介などもあり、各コーナーで担当者が一生懸命説明し、場が盛り上がり良かったという声もいただきました。おいしいパンとクッキーの販売、そしてスターバックスさまに本格コーヒーの無料提供をいただき、来場されたみなさまにはご満足いただけたかと思えます。センターの職員も初めてのまつりで、貴重な体験をさせていただきました。

(12) 読書会の開催

読書会は毎年春と秋の年2回開催していました。今年は春の読書会を7月に、秋の読書会を12月に開催しました。

春の読書会を次の内容で開催しました。

- ア 日時 平成26年7月18日(金) 13:30~16:00
- イ 会場 エポックなかはら 中原区上小田中6-22-5
- ウ 作品 『晴れた日は図書館へいこう』 緑川聖司著
- エ 参加者 11名

秋の読書会を次の内容で開催しました。

- ア 日時 平成26年12月5日(金) 13:30~16:00
- イ 会場 エポックなかはら 中原区上小田中6-22-5
- ウ 作品 「伊豆の踊り子」 川端康成著
- エ 参加者 10名

(13) デイジー図書ダウンロードサービスを開始しました。

センターでは、サピエにコンテンツのあるデイジー図書を、お手持ちのSDカード等にダウンロードして提供するサービスを開始しました。ご自身でインターネットへの接続やCD図書をSDカード等へ移行するのが困難な方が対象です。返却期限を気にせずお好きな図書を聞くことができます。ダウンロードサービスのご利用は無料ですが、SDカード等はご自身の負担で用意していただきます。

(14) 「シネマ・デイジー」の貸し出しを開始しました。

「シネマ・デイジー」とは、一枚のCDに映画本編の主音声と、登場人物の動きや場面、背景等の視覚情報を言葉で説明した音声解説をともに録音したものです。映画の映像を見ることはできませんが、お手持ちのデイジー再生機で手軽に「白い巨塔」や「明日の記憶」などの映画を楽しめます。また、デイジー形式で制作しているので、作品情報、キャストの紹介、映画の本編などに簡単に移動することもできます。センターではこのシネマ・デイジーを日本点字図書館から取り寄せて貸し出すことができます。貸し出し可能なリストの墨字版と点字版をご用意して、ご希望の方に差し上げています。

(15) 視覚障害者訓練事業の実施状況

盲人図書館時代からの訓練生に加えて、新規の訓練申込や相談が増えています。区役所の福祉課、基幹相談支援センター、更生相談所などからの依頼も増加し、センターの訓練事業が各機関に知られてきていると言えます。下半期に入り、歩行が終わって次は点字というように、一人の方が複数の訓練に入るケースも出てきています。歩行訓練、日常生活訓練は訪問、パソコンや点字などのコミュニケーション訓練は来所を基本としています。訓練生のほとんどが高齢であり、健康上の理由で来所が難しいケースも多く、コミュニケーション訓練であっても訪問を希望される方は多いです。センターが駅から遠く分かりづらいなどの地理的条件も、来所へのハードルになっていると言えます。

相談は様々なケースが寄せられています。視力が急激に低下してきてどうしたらよいか分からないという各種訓練につながっていくケースから、白杖や日常生活用具を給付で購入したい、プレクストークの使い方を習いたい、同行援護などの社会資源を利用したいののだがどうすればよいか教えて欲しい、iPADは視覚障害者でも使えるのか等々、多岐に渡った相談内容です。訓練には至らないケースも、訪問や来所による指導で対応しています。また、区役所の福祉担当から住宅改修についての相談を受け、実際に当事者の方のご意向を伺い担当者に説明するなど、行政からの要請を受けるケースもありました。

11月に行った訓練生対象の屋外交流会や隔月で開催しているぶらぶら会は、訓練生同士親睦を深め情報交換をする機会として有効な取り組みであり、参加された訓練生からも大変有意義であるという評価をいただいています。

訓練生の中には心理的ケアが必要な方や他の障害を併せ持つ方もおり、訓練担当としては、視覚障害だけに留まらない幅広い知識が必要となりますので、今後益々、関係諸機関との密接な連携をとっていく必要性を感じています。

ア 訓練申請と利用契約の状況

平成 25 年 3 月の川崎市視覚障害者訓練事業実施要綱の改正によって、申請先が各福祉事務所から盲人図書館（現センター）へ変更となり、利用者と直接契約を結ぶ形式に変更となりました。

(ア) 訓練の申請状況

平成 25 年度からの申請繰越 0 件、平成 26 年度申請分 38 件、合わせて 38 件の訓練申請がありました。

	平成 26 年度実績	前年度実績
申請受付件数	38	22
前年度からの申請繰越し件数	0	3(※)
申請件数計	38	25

(※)要綱改正後の手続きにより、改めて利用者と直接契約を結んだ件数です。

(イ) 訓練の契約状況

申請のあった 38 件に対して、37 件の訓練利用契約を締結し、訓練を実施しました。

※1 件は、訓練に入る前に本人より辞退。

	平成 26 年度実績	前年度実績
新規契約件数	30	25
前年度からの契約継続件数	7	0
契約件数計	37	25

イ 訓練生の状況

(ア) 年齢別の状況

平成 26 年度に訓練を実施した 37 名の年齢別の統計です。

主に中途視覚障害者を対象としているため、40 歳以上の方がほとんどです。

区分	男	女	計
18 歳未満	0	0	0
18 歳以上 40 歳未満	4	3	7
40 歳以上 65 歳未満	12	9	21
65 歳以上	6	3	9
計	22	15	37

(イ) 地区別の状況

区分	男	女	計
川崎福祉事務所	3	0	3
大師福祉事務所	2	1	3
田島福祉事務所	0	0	0
幸福社事務所	2	4	6
中原福祉事務所	2	5	7
高津福祉事務所	0	2	2
宮前福祉事務所	5	0	5
多摩福祉事務所	5	1	6
麻生福祉事務所	3	2	5
計	22	15	37

(ウ) 障害程度別の状況

大区分	小区分	男	女	計
1 級	0(a)	1	1	2
	明暗弁(b)	3	4	7
	手動弁(c)	0	0	0
	指数弁(d)	1	0	1
	0.01(e)	3	1	4
2 級		10	5	15
3 級		5	2	7
4 級		0	0	0
5 級		0	1	1
6 級		0	0	0
不所持		0	0	0
計		23	14	37

(a) 両眼が失明した者

(b) 暗室にて被検者の眼前で照明を点滅させ、明暗が弁別できる視力がある者

(c) 検者の手掌を被検者の眼前で上下左右に動かし、動きの方向を弁別できる者

(d) 検者の指の数を答えさせ、それを正答できる最長距離が 1m 未満の者

(e) 両眼の視力の和が 0.01 以下の者

(エ) 障害歴の状況

障害歴とは、障害者手帳の取得時期からの期間を指しています。

障害歴	男	女	計
1年未満	3	1	4
1～2年未満	1	1	2
2～3年未満	2	0	2
3～5年未満	1	1	2
5～10年未満	8	3	11
10～20年未満	0	5	5
20年以上	2	2	4
先天盲	0	0	0
計	17	13	30

(オ) 障害原因別の状況

大区分	小区分	男	女	計
中途障害	外傷	0	1	1
	糖尿病	8	0	8
	原因不明	12	11	23
	その他(※)	1	1	2
先天障害		2	1	3
計		7	18	25

(※) 網膜芽細胞種、脳梗塞

(カ) 眼疾患別の状況

区分	男	女	計
眼球全体(a)	14	5	19
角膜疾患(b)	0	1	1
水晶体疾患(c)	1	2	3
ブドウ膜疾患(d)	0	0	0
網膜疾患(e)	11	8	19
視束・視路疾患(f)	1	0	1
硝子体疾患	0	0	0
強度近視	0	0	0

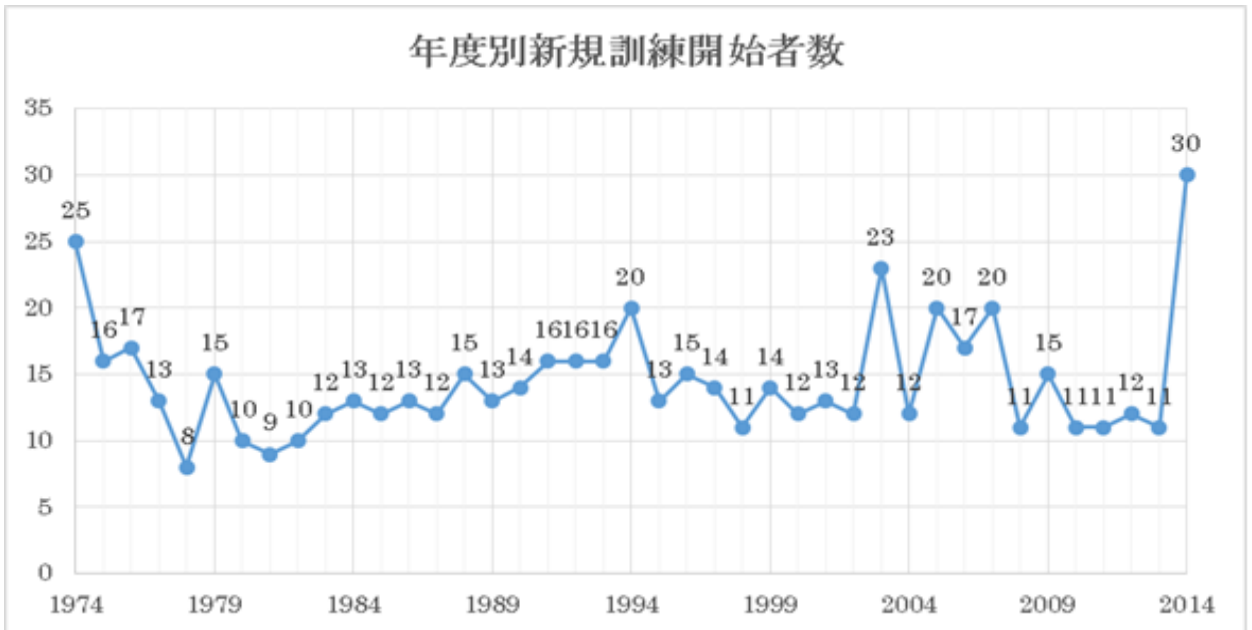
- (a) 緑内障、ステューブンスジョンソン症候群、眼球ろう、内因性眼内炎
(b) 角膜白斑、角膜白濁
(c) 白内障、両眼無水晶体
(d) ブドウ膜炎
(e) 網膜色素変性症、糖尿病網膜症、網膜剥離、虚血性網膜症、増殖性網膜炎、網膜芽細胞腫
(f) 視神経委縮、有髄神経線維、脳梗塞

眼疾患については、一名が複数の疾患を有している場合もすべて計上しています。

ウ 訓練の年度別の状況

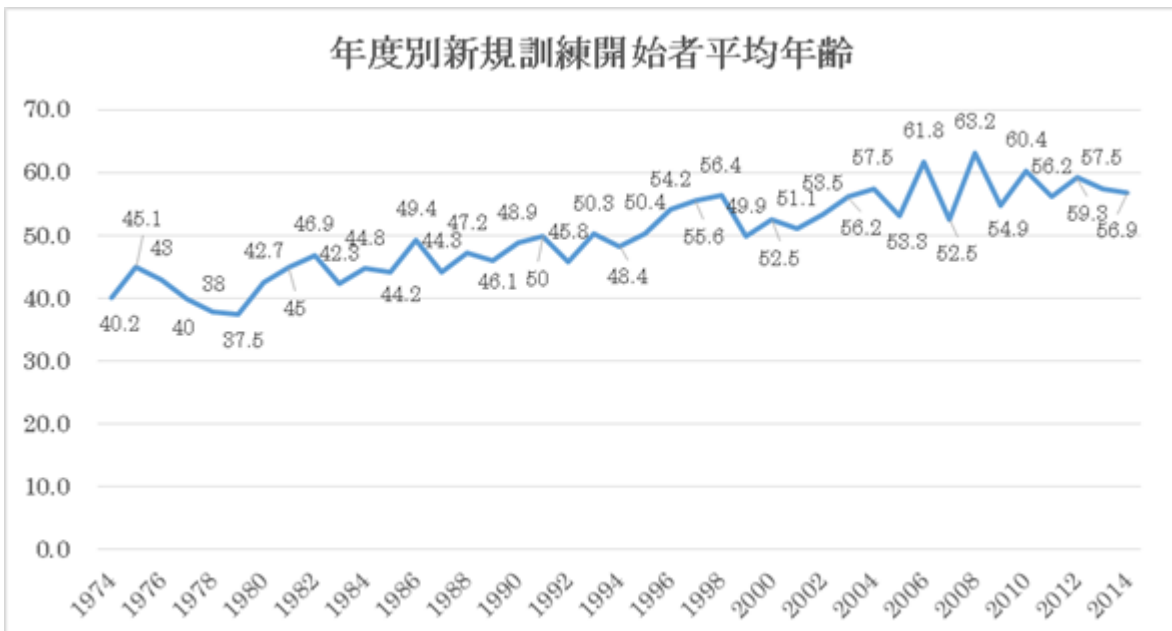
(ア) 新規訓練開始者の状況

新規訓練開始者の数は、昨年から3倍近く増えました。施設が変わりセンターまでの道順を覚えなおしたいという訓練生が多かったことも増加の一因です。



(イ) 新規訓練開始者の平均年齢の状況

年度別での平均年齢をみると、ここ10年は50～60歳代で推移しており、緩やかな上昇傾向にあることが分かります。



エ 訓練の内訳

平成 26 年度に実施した訓練の内訳です。合計 61 件、延べ 547 回の訓練を実施しました。

区 分		平成 26 年度				平成 25 年度	
		男	女	計	訓練回数	件数	訓練回数
コミュニケーション訓練	点 字	2 件	4 件	6 件	118 回	6 件	90 回
	ハンドライティング	0 件	1 件	1 件	5 回	0 件	0 回
	パソコン	15 件	8 件	23 件	198 回	15 件	236 回
	小 計	17 件	13 件	30 件	321 回	21 件	326 回
歩行訓練	白 杖	18 件	6 件	24 件	191 回	11 件	87 回
	小 計	18 件	6 件	24 件	191 回	11 件	87 回
日常生活訓練	身辺処理	3 件	1 件	4 件	28 回	9 件	69 回
	裁縫・編物	0 件	0 件	0 件	0 回	0 件	0 回
	調 理	3 件	0 件	3 件	7 回	8 件	96 回
	小 計	6 件	1 件	7 件	35 回	17 件	165 回
計		41 件	20 件	61 件	547 回	49 件	578 回

オ 各訓練の状況

(ア) コミュニケーション訓練

訓練実施件数は、点字 6 件、パソコン 23 件、ハンドライティング 1 件の計 30 件で、パソコンの増加が顕著です。視覚のほかに身体の手帳所持者も数名おり、また 60 歳以上の高齢の訓練者が多くなっています。共通の訓練プログラムを土台としながらも、訓練生個々の状況やニーズに合わせた柔軟な対応をしないと効果は上がりません。障害を受け入れるためのきっかけづくりとして点字・パソコンを学び、それを足掛かりとして社会復帰を目指すケースも見られます。

点字は、中途視覚障害、しかも高齢となると、すらすらと本が読めるようになることは稀にしかなく、目標も日常生活の中で簡単なメモを取ったり、読み返したりといった、より生活に即したものになります。

パソコンは、メールを含めたウェブ利用を目標とする方が多いですが、初めてパソコンを触る方などは、基本的な操作やキータッチから始めますので、訓練も長期間に及びます。

(イ) 歩行訓練

平成 26 年度に実施した歩行訓練は 24 件と昨年からかなり増加しました。これは、盲人図書館から川崎市視覚障害者情報文化センターに変わり、センターまでの道順を訓練して欲しいという希望が多かったのが原因の一つです。

コミュニケーション訓練と同じく高齢の方が増えており、これは昔に比べ、高齢化社会が進んだことや医療の進歩などで、視覚障害になる年齢が上がっているためです。

センターまでの道順の他、自宅近辺や、透析のため通院している病院の院内歩行訓練、通学や通勤の為の歩行訓練など本人の希望や目的、体調、視覚の状況によって訓練内容は変わってきます。

(ウ) 日常生活訓練

平成 26 年度に実施した訓練は身辺処理が 4 件、調理が 3 件、裁縫は 0 件でした。そのうち身辺処理と調理を両方実施した方は 2 人でした。

身辺処理訓練は掃除や片付け、簡単な裁縫などの日常生活一般の内容の訓練の他に、CD 図書再生機や携帯電話などの機械操作の訓練などカバーする分野が広いのが特徴です。

機械の操作に自信のなかった方も CD 図書を楽しめるようになる、携帯電話でメールを打てるようになる、購入した家電を使いこなせるようになるなどの成果があがりました。

調理訓練は電磁調理器や電子レンジなどといった火を使わず安全で簡単な調理方法を伝えました。また糖尿病の方にはカロリー制限に配慮したレシピを教えました。

カ 相談業務等の状況

(ア) 相談の状況

昨年までの盲人図書館時代との大きな違いは、用具の展示・販売コーナーの新設です。

各種用具に対する問い合わせは日常茶飯事で、その場ですぐに解決できることも多い為、日常の問い合わせ業務と考え相談業務には含めていません。その為、昨年の80件から10件に件数は減っています。この10件は、相談を受けた後、訪問をして操作説明を行ったりしたものに限っています。

複数の区分にまたがる相談もあり、困っていることが生活全般にわたっていることが分かります。特に用具の相談や購入から訓練につながるケースは増えています。

以前訓練を受けていた方からの相談も多く、訓練が終了しても継続的な支援が必要であるといえます。

区分	件数	平成25年度 件数
訓練(a)	66	55
各種用具(b)	10	80
その他(c)	28	23
計	104	158

(a) 訓練に関する相談の種類と件数

1件の相談に対して複数の訓練の相談を含む場合もあります。各種訓練相談の他に、どういう訓練があるのか、どの訓練を受けるべきかといった訓練全体に対する相談もありました。また相談支援センターなど他の障害相談施設などからの問い合わせや訓練生の紹介も見られました。

(b) 各種用具に関する相談の種類と件数

録音図書再生機器であるプレクストークを購入したが使い方が分からない、ICレコーダ、地デジ対応ラジオの操作方法を教えて欲しいなど、訪問でのアフターフォローを含めたものが多く見られました。単なる給付申請の為の見積書発行業務などは相談業務にカウントしていません。

(c) 進路、就職に関する相談から、冷蔵庫やレコードプレーヤーを購入したが使い方が分からないので教えに来て欲しいなどのケースが見られました。

(イ) 訪問指導・来所指導の状況

1件の相談に対して、数回の訪問あるいは来所が必要になる場合があります。そうしたケースを訪問指導あるいは来所指導として、相談および訓練とは分けて対処しています。

区分	件数	延回数
訪問指導	44件	77回
来所指導	21件	25回
計	65件	102回

具体的には、視覚障害者用ポータブルレコーダーの基本的な使い方、白杖・日常生活用具の紹介、生活状況の聞き取り等です。

キ 川崎市視覚障害者情報文化センター訓練事業説明会

(ア) 日時 平成26年7月11日(金) 13:30～16:30

(イ) 場所 センター3階多目的室

(ウ) 対象 福祉事務所、県内関係施設、当訓練担当職員

(エ) 参加人数 20名

(オ) 内容

- ・平成25年度事業報告及び質疑・意見交換
- ・日常生活用具・補装具類・各種訓練体験コーナーでの実演・デイジー図書再生機の操作体験

ク 屋外交流会の実施状況

職員とマンツーマンで訓練している訓練生が、同じ障害を持つ訓練生と交流・親睦を深め、今後の社会参加を促すことを目的として実施しました。

当日参加された方からは、「天気も良く生命の星・地球博物館におきましては、いろいろ触れたり、説明を受けたりと大変勉強になりました」などの感想がありました。

(ア) 日時 平成26年11月21日(金) 8:00～16:00

(イ) 場所 神奈川県立生命の星・地球博物館

(ウ) 参加人数 訓練生11名、付き添い及び職員16名、合計27名

ケ 訓練生懇親会

昨年度から引き続き、日頃外出の機会が少ない訓練生を対象とした懇親会を5回行いました。視覚障害についての不安や悩みを分かち合うことや、それぞれの買物の仕方などを話し合うことで、生活していく上での工夫を知ることな

ど、参加者にとって有意義な会になりました。

- (ア) 日時 平成 26 年 5 月 28 日、8 月 6 日、10 月 8 日、12 月 3 日
平成 27 年 2 月 4 日
各回 13:00～15:00
- (イ) 場所 センター多目的室
- (ウ) 参加人数 5～6 名

コ パソコンサポートボランティア研修会

川崎市視覚障害者ボランティア連絡会（オブリガード）のパソコン部会対象で iPad 体験会を 1 回実施しました。

- (ア) 日時 平成 26 年 10 月 16 日
- (イ) 場所 エポック中原 5 階ボランティア交流室
- (ウ) 参加人数 30 名

サ 講師派遣の状況

- (ア) 川崎市視覚障害者福祉協会主催「プレクストーク操作説明会」
 - a 日時 平成 26 年 8 月 24 日
 - b 場所 川崎市北部身体障害者福祉会館
 - c 内容 各種プレクストーク機器の操作説明
- (イ) 川崎市立稲田小学校での視覚障害者の日常生活紹介
 - a 日時 平成 26 年 12 月 5 日
 - b 場所 川崎市立稲田小学校
 - c 内容 4 年生 158 人に対し、視覚障害当事者からの日常生活などの紹介
- (ウ) 川崎市立小田小学校での視覚障害者の日常生活紹介
 - a 日時 平成 27 年 1 月 30 日
 - b 場所 川崎市立小田小学校
 - c 内容 視覚障害当事者から日常生活などの紹介

シ 研修への参加状況

- (ア) 平成 26 年度視覚障害者生活支援研修会
 - a 日時 平成 26 年 5 月 29 日、5 月 30 日
 - b 場所 国立障害者リハビリテーションセンター
 - c 内容 高齢者の視覚障害者の実態とリハビリテーション
- (イ) NVDA ワールド 2014 東京
 - a 日時 平成 26 年 9 月 6 日
 - b 場所 日本盲人会連合
 - c 内容 無料で使えるパソコン用スクリーンリーダー「NVDA」の導入から最新情報まで

- (ウ) 盲ろう者福祉ワーカー研修会
 - a 日時 平成 26 月 9 月 10 日、9 月 17 日
 - b 場所 東京都盲ろう者支援センター
 - c 内容 盲ろう者に対する基礎知識とコミュニケーションに関して

- (エ) 補そう具・日常生活用具研修会
 - a 日時 平成 26 月 12 月 11 日
 - b 場所 藤沢市役所
 - c 内容 日本盲人会連合主催で、補そう具・日常生活用具給付制度の説明と問題点について

- (オ) 盲ろう者に対する点字指導研修会
 - a 日時 平成 26 月 1 月 14 日、1 月 21 日
 - b 場所 東京都盲ろう者支援センター
 - c 内容 盲ろう者に点字指導を行う場合、どのような工夫が必要なのか等

- (カ) 災害時視聴覚障害者支援リーダー養成講座
 - a 日時 平成 27 月 1 月 27 日、1 月 28 日
 - b 場所 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール
 - c 内容 災害時における要援護者支援ボランティアリーダーの養成、平時の防災活動や支援体制づくり等

ス 関係機関との連携

- (ア) 第 62 回全国盲人福祉施設大会
 - a 日時 平成 26 年 6 月 26 日、6 月 27 日
 - b 場所 ヒルトン福岡シーホーク
 - c 内容 読み書き支援の広がりや災害支援に注目が集まる GPS について

- (イ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会定期総会
 - a 日時 平成 26 年 5 月 22 日
 - b 場所 神奈川県ライトセンター
 - c 内容 平成 25 年度事業報告並びに決算報告
平成 26 年度事業計画及び予算案

- (ウ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会事務連絡会
 - a 日時 平成 26 年 6 月 19 日、9 月 18 日、平成 26 年 2 月 19 日
 - b 場所 平塚盲学校、横須賀市点字図書館、川崎市視覚障害者情報文化センター
 - c 内容 職員研修会の内容について等

- (エ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による iPad 講習会
 - a 日時 平成 26 月 11 月 19 日

- b 場所 川崎市視覚障害者情報文化センター
- c 内容 施設職員を対象に、ボイスオーバー機能や拡大反転機能など視覚障害者にとっての使い方や便利なアプリ紹介

(オ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会の主催による「NVDA」研修会

- a 日時 平成 27 年 1 月 27 日
- b 場所 藤沢点字図書館
- c 内容 無料で使えるパソコン用スクリーンリーダー「NVDA」の最新情報と今後の可能性について

(カ) 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会日常生活指導事例検討会

- a 日時 平成 27 年 2 月 19 日
- b 場所 川崎市視覚障害者情報文化センター
- c 内容 視覚障害者の化粧の指導

セ 展示会などへの参加状況

(ア) 視覚障害者向け機器展示&各種相談会

- a 日時 平成 26 年 7 月 27 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 「外出したい」「読書したい」など内容ごとに道具やサービスが 1 つのブースに集まった展示会&相談会

(イ) 拡大読書器&プレクストーク体験会

- a 日時 平成 26 年 10 月 18 日
- b 場所 川崎市視覚障害者情報文化センター
- c 内容 各メーカーによる最新の拡大読書器の展示とプレクストークの操作説明。センター主催

(ウ) 神奈川県ライトセンターフェスティバル

- a 日時 平成 26 年 11 月 8 日
- b 場所 神奈川県ライトセンター
- c 内容 日常生活用具・便利グッズの展示即売会

(エ) 横浜市視覚障害者福祉協会主催の「日常生活・便利グッズ展示体験会」

- a 日時 平成 27 年 2 月 15 日
- b 場所 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール
- c 内容 視覚障害者用具の展示即売会。給付制度などの情報提供

<用具について>

用具購入のための来館者はコンスタントに増えてきました。特に白杖購入の相談が多くなっており、給付申請件数が増えている状況です。また川崎市内のみ

ならず、横浜、平塚、御殿場などからの来客がありました。京浜地区の方々にとっては、高田馬場まで行かなくても用具を手にとってみられるということで大変好評です。防災イベントなどの機会に関連商品を紹介し、こちらも参加者には大変好評でした。

また、小田原、横浜での用具展示会にも参加し、県内他地域のかたがたに直接用具をご紹介する機会となったほか、横須賀の点字図書館からも問い合わせがあるなど、つながりが広がっています。

一方で、市内北部の利用者からは場所が遠くて見に行きづらいという意見もあります。ホームページを見ての遠方からの問い合わせも増えてます。

<イベントについて>

4月のオープニングコンサートを皮切りに毎月イベントを企画している。センターでは、4月5日(土)に初イベントとして日本点字図書館のチャリティコンサートでお世話になった、洗足学園の伊藤康英先生のピアノと綱川泰典さんのフルート演奏、洗足OBの吹奏楽団「オクトパス」によるコンサートを開催しました。当日は100名ほどの来場をいただきました。盲人図書館には行った事の無い方など、従来図書館がしなかったコンサートなどを開催したことが、センターに足を運んでいただくことに繋がったと思います。

また、7月29日に川崎市視覚障害者福祉協会主催「福祉囲碁大会」を共催し運営を行い、120名の参加がありました。そのことが朝日新聞デジタル版と日経新聞に紹介記事として掲載されました。

毎月第4土曜日の音声解説付きDVD映画体験上映会はイベントとして定着していますが、来場者数は作品の知名度や当日の天候などに左右されています。

コンサート、朗読会はいずれもアンケートの結果では高い満足度でした。

9月に行った「キルギス写真展とボランティア活動の報告会」も充実した内容で、来館者の関心度も高かったです。

11月の訓練生屋外交流会では訓練生11名、職員・誘導者あわせて27名が参加しました。借り上げバスで小田原の「生命の星・地球博物館」と「かまぼこの里」に行きましたが、車中でのレクリエーションや博物館見学を通じて、訓練生の間での交流が深まりました。天候にも恵まれ、見学場所も適切で参加された皆さんからも大変好評であり、充実した行事となりました。



市内関係者に対する訓練事業説明会(6月)、市内小中学校教職員見学会(11月)などを通じてセンターの事業を知っていただき、利用者支援につながるような取り組みを今後も続けていく必要があります。

<見学について>

川崎市市議 3 名(障害者審議会座長)、川崎市健康福祉局庶務課、財政局財政課の合同見学、日本点字図書館評議員の山崎さんと川崎ロータリークラブの方、平塚盲学校関係者、神奈川障害者職業能力開発校、川崎市社会福祉協議会等。その中で平塚盲学校、障害者職業能力開発校からは、秋ごろに、あらためて生徒の郊外学習としてセンター見学をしたいと申し入れがあり実施されました。障害者職業能力開発校は支援者の方たちを対象としたものでした。

平成 26 年度川崎市視覚障害者情報文化センター

事業概要

発行	川崎市視覚障害者情報文化センター
発行日	平成 27 年 3 月 31 日

名称	川崎市視覚障害者情報文化センター
指定管理者	社会福祉法人日本点字図書館
住所	〒 2 1 0 - 0 0 2 6 川崎市川崎区堤根 3 4 - 1 5
電話	(0 4 4) - 2 2 2 - 1 6 1 1
F A X	(0 4 4) - 2 2 2 - 8 1 0 5
メールアドレス	kawasaki-icc@kawasaki-icc.jp
ホームページアドレス	http://www.kawasaki-icc.jp